

■ 会長の時間

伊達 紫 会長



会長挨拶

皆さん、こんにちは

皆さん、こんにちは。
寒さが一段と厳しくなって参りました。

体調管理には十分にお気を付けください。

さて、私どもの年度もちょうど中間点を過ぎたことになり、残り半年、ギアを上げていかなければならないと考えております。そこで、今日は、「会員増強」について、いくつかの視点から触れたいと思います。12月10日、夜間例会の日の午前中、戸高ガバナー補佐との面談においても、マイロータリーへの登録について、カルガリーでの国際大会について、危機管理について、に加えて、会員増強が当地区での大きな課題であるとお話がありました。

マイロータリー登録につきましては、歴代の会長および委員長さんたちのご尽力で、入会時に登録の案内をし、登録状況をチェックするという仕組みが機能しており、当クラブでは100%を維持することができています。ただ、本来は、「登録すること」が目的ではなく、登録したことで得られるロータリー活動のやり方や問題解決法をうまく利用して、クラブの弱みを強みに変えることではないかと考えています。

マイロータリーの会員増強のパートには、「会員参加を促すベストプラクティス」というラーニングコースがあり、そのコースの説明には次のように書かれています。「[入会者よりも退会者のほうが多い]」「[例会や行事への出席率が低い]」「[いつも同じ人たちが役目を担っている]」..... そんなクラブにとって問題解決のカギとなるのが「会員の参加促進」です。会員のニーズは、仕事や家庭などの事情によって異なります。このコースでは、さまざまなロータリー歴の会員の参加を促し、会員の満足度を高めるための方法をご紹介します」というものです。当クラブの問題点をズバットついており、ドキッとしました。一方で、この課題は、万国共通の課題でもあるのだなとも思いました。そのベストプラクティスとして紹介されていたのが、「会員関心事アンケート」というものです。新入会員や入会候補者を対象に、会員の経歴、関心、どのような貢献をしたいかを把握することで、クラブがその期待に応え、楽しく参加してもらえるにはどうすればよいかを見定めることができ、クラブの発展につながるのと同時に、入会や参加の妨げになりうる要因についての情報も収集することができます。つまり、入会時に抱いておられた個々の会員のクラブへの期待を、少しでも具現化しようということだと思えます。サンプルとして掲載されているアンケートは、まず、経歴・自己紹介、次にロータリー入会について、そのきっかけや会員としてどのような体験を期待するか、クラブで立てることのできるどのような強みとスキルをお持ちか、ロータリーで期待する体験として重要度の高いもの、例え

ば、「親睦」、「奉仕活動・社会貢献」、「人脈を広げること」などについて順位をつける、といった内容で、続いてそれぞれの活動の具体的内容を問うものです。掲載されているアンケートサンプルはかなりボリュームがあり、記載欄も多いことから、このまま採用することは難しいと思いますが、よりシンプルにして実施することも、今後検討してよいかと思っています。現委員長の辻さんとこれから発表される次年度委員長さんとタッグを組んで、取り組んでいただきたい重要な課題だと思っています。そして、出席向上・会員増強委員会委員長の辻さんの経っての願いである出席100%を今年度中に達成することを下半期の目標とすることを宣言したいと思います(いかがでしょうか)。

例えば、〇月〇日を「100%例会出席デー」と定め、webおよびオンデマンドを駆使し、例会を欠席された会員は「おとも de メークアップ」あるいは「おとも de サインアップ」に出席してもらい100%を達成します。

兎にも角にも、残り半年、皆様のご協力をよろしく願います。

■ 幹事報告

辻 清 幹事



① 宮崎南ロータリークラブ 50 周年事業について
2025.3.22(土)宮崎観光ホテル
(詳細はメールにて)

② 宮崎南ロータリークラブ 50 周年ゴルフコンペについて
2025.3.23(日)宮崎カントリークラブ
(詳細はメールにて)

③ ガバナー事務所の閉所について
2024.12.28(土)~ 2025.1.5(日)閉所

④ ロータリーレートについて
12月 1ドル: 150円

⑤ ロータリー月信について
ロータリー月信が3冊届いております。月信の拝読はロータリアンの義務の一つです。例会内に回覧しますが、MyRotaryからも閲覧できますので、必ずご拝読をお願いします。

⑥ 2024.11.26 第 143 回例会での米山奨学とロータリー財団募金報告について
米山奨学 1,792円 ロータリー財団 1,207円

■ お誕生日お祝い



12月お誕生日を迎える皆さんです。おめでとうございます!!

井手 知仁 会員
梅田 裕樹 会員

■ 卓話



金岡 保之
国際奉仕・青少年奉仕委員会
委員長

■ 出席報告

会員数 37名
出席者数 17名
欠席者数 17名
出席率 50.00%

第142回例会修正
会員数 37名
出席者 15名
メイクアップ 0名
修正出席者数 15名
修正出席率 40.54%

■ 年次総会

[定足数の確認]

細則第1条定義4項定足数では、クラブの決定の場合は本クラブ総数の3分の1。

本日現在の会員数34名に対し、本日出席者17名、委任状提出者7名、合計24名により当年次総会は成立。

[議長選出]

通例により年度会長が議長。

伊達会長へ多数承認にて議長就任。

[議案審議]

第1号議案 2024-2025年度会長ノミニニーについて

指名委員会 葉王寺委員長代理より 2024-2025年度会長ノミニニー(次年度会長エレクト)として勢井会員を推薦され、承認された。

第2号議案 2025-2026年度役員理事について

梅田会長エレクトより 2025-2026年度理事役員の選出(案)の説明に対し、承認された。

なお、承認された2025-2026年度理事役員は以下の通り。

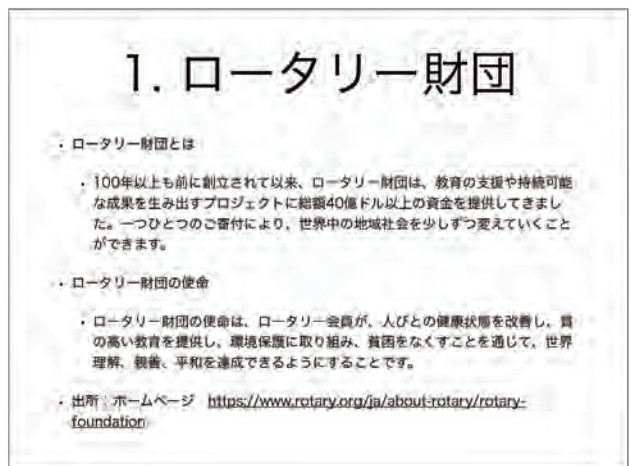
会長 梅田裕樹
会長エレクト 勢井 由美子
副会長 水居 徹
幹事 大地 寛行
会計 安田 文彦

クラブ奉仕委員会 委員長
出席向上・会員増強選考委員会 委員長
職業奉仕・社会奉仕委員会 委員長
国際奉仕・青少年奉仕委員会 委員長
DEI推進・クラブ機能強化委員会 委員長

辻 清
吉田 博文
竹井 倫世
樋口 徳親
富山 幸子



2025-2026年度理事役員承認後の梅田会長エレクトのコメント
「理事役員のサポートをもらいながら、楽しいクラブ活動を行っていきます。」



地区補助金

- ・地区補助金とは
 - ・地区補助金は、地元や海外の地域社会のニーズに取り組み、比較的規模の小さい、短期的な活動を支援します。各地区は、この補助金を配分するプロジェクトを独自に選びます。
- ・地区補助金による活動の種類
 - ・地区補助金は、地区やクラブの幅広いプロジェクトや活動に活用可能
 - ・人道的プロジェクト（奉仕活動を行うための現地への貢献や災害復興活動など）
 - ・奨学金（教育機関のレベルや場所、支給期間、専攻分野の制約なし）
 - ・青少年プログラム（ロータリー青少年交換、ロータリー青少年リーダー養成プログラム(RYLA)、ローターアクト、インターアクト)
 - ・専門職業をもつ人びとから成る職業研修チームの派遣（現地の人びとに職業研修を行うチーム、または現地で職業スキルを学ぶチーム）
 - ・2020-21年度「トーゴ共和国バダベ村バダベC公立小学校教育支援事業」（井戸掘削、校舎建設、図書寄贈）を行った。
 - ・出所：<https://my.rotary.org/ja/take-action/apply-grants/district-grants>

平和フェロー

- ・平和フェローとは
 - ・平和は「人」から始まる。と考えるロータリーは、平和フェロースHIP（奨学金）を通じて、世界平和と開発の担い手となる人材を育て、平和推進者の世界的ネットワークを築いています。
 - ・毎年、ロータリー平和センター提携大学で学ぶフェローが世界中から選ばれ、ロータリーからフェロースHIP（全額支給の奨学金）が授与されます。フェロースHIPには、授業料・入学金の全額、滞在費（宿舎・食費）、往復航空券、インターンシップと実地研修の費用が含まれます。
 - ・2002年に創設されて以来、ロータリー平和センターは1,600人以上のフェローを輩出してきました。これらのフェローは現在、140カ国以上で活躍し、政府、NGO、教育、研究機関、平和維持および法執行機関のほか、国連や世界銀行といった国際機関でリーダーシップを発揮しています。
 - ・修士課程8万ドル/人
 - ・日本人は内38人（3%）本年度1名、日本の受入機関はICU（学長は宮崎県出身）
- ・出所：<https://www.rotary.org/ja/our-programs/peace-fellowships>

グローバル補助金

- ・グローバル補助金とは
 - ・グローバル補助金は、ロータリーの重点分野（7分野）に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動を支援します。クラブと地区は、グローバル補助金を通じて地域社会のニーズに対応する活動を行うことで、グローバルなパートナーシップを強化できます。
- ・グローバル補助金による活動の種類
 - ・人道的プロジェクト：国際協力、国際開発
 - ・奨学金：大学院レベルの留学（女性第一号：緒方貞子氏、池之上前ガバナー）
 - ・職業研修チーム（VIT）：専門職業に関係する研修を提供するチームや、研修を受けるチームを海外に派遣
- ・出所：<https://my.rotary.org/ja/take-action/apply-grants/global-grants>

2. ロータリーと私

- ・2つのクラブに所属してきた。ロータリー歴21年
- ・世界のRCメイクアップ
 - ・カリフォルニア（姉妹クラブ）、ハワイ、ケンブリッジ、ベトナム、上海など
- ・トーゴ共和国との縁
 - ・ロータリー国際親善奨学生カウンセラー→一般社団法人日本トーゴ友好協会設立→地域の国際化の研究
- ・大学教員との縁
 - ・RC会員紹介→神戸家庭裁判所非常勤職員参与員→東京大学研究員→関西私立大学→宮崎大学

3. 地区補助金

- ・2014-15宝塚武庫川RCで「トーゴの人道支援」
- ・2021-22宮崎アカデミーロータリークラブで「トーゴの人道支援」

UNHCR 日本

日本人女性の国際人道法専門家



緒方貞子氏は、国連人道危機対応専門家として、2009年から2019年まで10年間にわたって活動されました。

緒方氏は1937年東京生まれ、戦中移住した。幼少、戦争を経験しました。東京女子大学で国際法を学び、その後、ケンブリッジ大学で国際法を専攻しました。その後、ロンドンで国際法の専門家として活動し、1991年に国連難民高等弁務官に就任しました。

緒方氏は国連難民高等弁務官として、2009年から2019年まで10年間にわたって活動しました。

外交官の家族に生まれた緒方氏は、第二次世界大戦後、国際関係に関心をもち、米国のワシントンD.C.のジョージタウン大学大学院へ留学。1951年、日本人として2人目のロータリー国際親善奨学生となりました。元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏

「ロータリー奨学生として留学中、社会奉仕の重要性を学んだだけでなく、ロータリアンの方々と交流を通じて、見識を広げ、さまざまな経験ができた」と緒方氏は振り返ります。「『私の仕事』というロータリーのモットーに深い感銘を受け、以来、これが私の人生の指針となりました」

カリフォルニア大学バークレー校から博士号を取得後、日本に帰国した緒方氏は、現在ロータリー平和センターがある国際基督教大学と早稲田大学で教鞭をとりました。その後、1991年に国連難民高等弁務官（UNHCR）に就任。さらに、国連総会で日本代表、国連日本政府代表部とユニセフの執行理事会議長も歴任しました。「

概要

- ・RI会長 ステファニー・A・アーテック氏が、ドミニカ共和国での浄水器の支援で少年が言ったもう「一度魔法を見せて」から、テーマの「ロータリーのマジック」となった。
- ・私たちのクラブも微力ながら西アフリカのトーゴの安全な水の供給やトイレ整備などの支援を行ってきた。
- ・私の会長年度2020-21年度には、2つの人道支援を行った。
 - ① 1、日向市からの協力を得て循環型の衛生トイレの「エコサントイレ」を男女用2基の整備をした。（ロータリーの友 2024年3月号「水と衛生」特集に掲載）
 - ② 2、地区補助金を活用して、トーゴ共和国バダベ村バダベC公立小学校教育支援事業を行なった。小学校で井戸掘削をはじめ、クラスルームの建設、図書寄贈を行った。



トーゴ共和国について



- 1960年にフランスから独立・建国
- 西アフリカに位置する後発発展途国
- 宮崎大学との交流は2017年から始まり、2019年からホストタウン登録した日向市との交流を本格化
- 2020年に宮崎アカデミーロータリークラブが2つのプロジェクト開始



事業概要

(1) 集会施設（クラスルーム）建設

村の小学生の数は約500人で十分な教育の場が不足しており、学校の校舎は古く屋根が朽ちていて雨漏りすることなどの課題があった。そこで、50人程度の小学生が収容できる集会施設（クラスルーム）を建設した。

(2) 井戸掘削

小学校に井戸などの設備がないため、飲料用はもちろんのこと、コロナ禍で手洗いの水がない。また、寒期などの時期によっては遠方に水汲みに行くことで教育の機会が奪われている現状があった。そこで、小学校に新たに井戸を掘削して、500人の小学生に安全な水を常時供給することができ、また教育の時間や機会を提供した。

(3) 図書寄贈

小学校では、教育教材としての教科書や図書が慢性的に不足している。その現状改善の支援のために、教科書や参考書としてのフランス語（公用語）の図書を200冊寄贈した。

①トイレ整備



『ロータリーの友』2024年3月号「水と衛生」特集に掲載された

井戸、クラスルーム完成と図書寄贈



予算

- 総予算：706,034円
- 内訳
 - 宮崎アカデミーロータリークラブ 約10万円
 - RI第2730地区補助金 約57万円
 - 一般社団法人日本トーゴ友好協会 約3万円

成果

- 事業の経過動画：<https://www.youtube.com/watch?v=NCQyW9cLcPg>
- 2730地区、現地 NPO や RC、駐日大使館などの協力を得て、コロナ禍においてもアフリカの事業を、ほぼ予定通りに完了することができた。
- 現地の小学校の代表者からは感謝の言葉を頂いた。「雨の日でも授業が行えるようになり、子どもたちが水汲みの労働から解放されて、学ぶことができるようになったことに感謝しています。」

②地区補助金 RI第2730地区補助金事業 トーゴ共和国パダペ村での教育支援

- 場所：パダペ村のパダペ公立小学校（EPP KPADAPE / C）
 - パダペ村：ロメから北西へ約2時間、人口約5,500人
- 主催：宮崎アカデミーRC、地区補助金事業
- 現地協力団体：NPO法人リテラル、ロメ・パールRC
 - 井戸掘削（教育機会の提供）約27万円
 - 集会施設（教育の場の提供）約33万円
 - 図書寄贈（教育教材の提供）約10万円

4. まとめ

- 「たかがロータリー、されどロータリー」
 - ロータリークラブの活動が地味であっても、その重要性や影響力をしっかりと認識することを促す表現です。
- ロータリーは人生の道場である
 - ロータリークラブは単なる交友の場ではなく、自分自身を成長させ、社会に貢献するための「道場」として機能しています。